

しあわせあふれる 「我が島」づくり

親善都市
石垣市長
中山 義隆 氏



教育随想



平成 29 年 10 月 1 日

10 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
親善都市 石垣市長	中山 義隆 氏
この人に聞く……………	2
東公園ゾウ専任飼育員	山西 聡 氏
羅針盤……………	2
福岡中学校長	中村 郁夫
ふれあい……………	3
常磐中	宮澤 元紀
特集……………	4
岡崎の農業を未来へつなぐ	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
親子で村積山に登る会 (昭和 59 年)	
この本を……………	8

石垣市は、沖縄県の県庁所在地である那覇市から南西へ約四一〇kmに位置する石垣島を主な行政区としています。

平成二十五年三月の新空港開港や大型旅客船の寄港回数増加などにより、観光客数は好調に推移し、昨年の入域観光客数は、過去最高の一二四万人を記録しました。

今年、市制施行七〇周年を迎え、様々な記念イベントを実施しており、多くの方々が本市を訪れることを心からお待ちしております。

岡崎市と石垣市は、太平洋戦争中に石垣島に駐屯していた岡崎市出身の海軍将校兵たちが、戦後、石垣市立大浜小学校へ童話集や参考書を贈ったことが縁で、貴市奥殿小学校と姉妹校となり交流が始まりました。その後、昭和四十四年二月十九日に親善都市締結の調印が行われ、今年で四十八年を迎えています。

さて、本市は、市立小学校二十校、市立中学校九校と人口に比して多くの学校が設置されています。これは、行政面積が広く、島の各集落に学校が

設置されていることによるものです。人口は、平成二十九年五月末時点で四九、〇七八人となっており、近年は微増傾向にあります。北西部地区の児童生徒数は年々減少しており、市街地以外にある学校は、ほとんどが過小規模校となっています。

本市では、沖縄振興一括交付金を活用し、市立小中学校の全普通教室に電子黒板を整備しました。それとともにICT支援員を配置して教職員のスキルアップのサポートを行っています。

また、児童生徒の個に応じたきめ細やかな学習を支援するため、学校教育支援員を配置し、学力の全体的な底上げを図っています。

放課後には、冠鷲プロジェクトと題し、地域ボランティアやスポーツ少年団父母会等の協力を得て、授業終了後から部活動開始までの合間の時間に児童生徒の学習支援を行っています。

こうした施策が実を結び、以前は全国学力・学習状況調査で県内最下位を争っていましたが、昨年の調査に

おいては、小学校の正答率は三教科で全国平均を上回るまでになりました。今後も、第四次石垣市総合計画で掲げられた「みんなで未来につなげるしあわせあふれる『我が島』づくり」の基本理念の下、「島の魅力と活力が奏でる海洋・文化交流都市いしがき」の実現に向け、美しい自然と伝統文化を活かし、人間性豊かな人材の育成を市民とともに目指していきたいと考えています。

(なかやま よしたか)





ふじ子に寄り添いながら

東公園ゾウ専任飼育員

山西 聡 氏

今年四月新しく公開されたゾウ舎をバックに山西氏は語った。
「心を許した相手には、ゾウはキョッキョクと鳴くのですよ。そうなれば、僕も一人前です。」

山西氏は十五年前に、和歌山県の動物園でのゾウの飼育経験を買われて東公園の飼育員となった。しかし、ふじ子の飼育は当初思うようにいかないことの連続であったという。

「最初ふじ子は僕ら飼育員を受け入れてくれませんでした。今でも、近くに行つて直接触れることは難しいです。」
前任の飼育員は、ふじ子と一緒に柵の中に入つて信頼関係を築きながら世話をする直接飼育という方法をとっていた。しかし、時代の流れもあり、山西氏が東公園に来てからは、

飼育員の安全確保と負担軽減のため、ゾウに直接触れず、柵越しに世話をする準間接飼育に替わつたという。
「ゾウは穏やかそうな外見ですが、飼育員の事故が最も多い動物です。でも病気になるように体のケアをしなければなりません。近づいてブラシをかけたいけれど、それをしようとする鼻ではたかれてけがをする危険があります。柵の中に入り近づいて飼育できない分、僕たちの世話を思うようにふじ子は受け入れてくれず困ることもあります。」

飼育員になつた当時、直接飼育で主従関係を作らないといけないと教え込まれてきた山西氏は、最初はどうしても強い口調で、言うことを聞かせようとした時期があつたという。
「ふじ子からとても嫌われていたのだと思います。言うことを聞かせようとすればするほど、お前の言うことは聞かないと彼女が言っているようでした。同じことを女性の後輩飼育員が言くと、素直に言うことを聞く。何で僕の言うことは聞いてくれないのだと自分がすべて否定されているような気になりました。」

四人の飼育員の中でも経験年数の長い山西氏は、何とか自分がやらなければいけないという気負いがあつた。しかし、今までの考え方を大きく変える言葉に出会つた。

「君ができなくても誰かができるようになればいい。焦らなくていい」と当時の園長に言われました。これ

までのような強引な接し方をやめて、できるだけふじ子の思いに寄り添つた接し方が必要かなと考え方を変えてみました。飼育員は僕だけではないので、皆で協力し合つて、ふじ子に合った飼育を考えながら接していく中で、彼女の態度も少しずつ違つてきたような気がします。」

そして、今の思いをこう語る。

「ふじ子が新しいゾウ舎に慣れて、健康でもっと長生きしてくれることが一番の願いです。ふじ子の飼育に携わらせてもらっている以上、彼女との距離を縮めて、うまくケアをして、長生きしてもらい、これからもより多くの人たちにふじ子の元気な姿を見てもらいたいと思います。」

無料でゾウが見られる動物園は、全国でも岡崎が唯一だという。今年で四十九歳になるふじ子の長寿を願ひ、多くの子供たちの笑顔のために、山西氏の努力は続く。



氏名 やまにし そう
生年月日 昭和四十五年八月一九日
住 所 岡崎市丸山町



研究と学校経営

福岡中学校長

中村 郁夫

福岡中学校は、平成二十七年に愛知県教育委員会から二年間、岡崎市教育委員会から三年間の研究を委嘱された。文部科学省では、学習指導要領の次期改訂が進められており、授業を改善するよい機会に恵まれた。

研究を進めるに当たり、次の三点を特に留意した。①研究が常に生徒の方を向いていること。②教師が自分の研究として受け止め、研修の場となつていくこと。③福岡中の独自性があること。

中学校では、教師が「専門ではないから」を理由に、他教科のことにあまりかわらうとしない。この考え方が研究の広がりや深まりの障害となる。本校では、教科の理論を超えて、指導の理論で研究を進めていくことにした。



決意の発言

常磐中
宮澤 元紀

「クラスは一つの船である。一年間かけてゴールへ向けて進む中、荒波におつかることもある。それでも、折れない柱となるのが学級訓だ。」

これは、初任のときに先輩から教わった言葉である。それ以来、私は生徒に互いの考えを出し合わせて、級訓を決める時間を大切にしてきた。今年度受け持ったのは三年生である。級訓決めのために思いを紙に書かせると、最後の学級をいいものにしたと漠然とつづる生徒が多かった。その中で、A子の「明るさだけでなく、この学級にも負けない、三年生らしくたくましいクラスにした」という思いが詰まった力強い言葉を見つけた。A子の意見は他の生徒にもよい影響があると考え、彼女に意見を学級全体の場で発表してほしいと伝えた。しかし、「そういうキャラじゃないんです」と表情を変えないまま、そっけない言葉が返ってきた。話を聞くと、A子は、自分の意見を周囲がどう受け止めるのかを不安に思い、今まで考えを発言することなく過ごしてきたという。級訓を大事にしたいと思い、A子が自分の意見を言うことに価値を感じてほしいという願いが、私の中で重なった。称賛の朱書きをした紙を渡しながら、「君の意見はみんなを変える」と目を見て話した。A子は、自信がなさそうではあったが、少しいれそうな表情を見せた。

翌日、級訓決めのために学級会を開いた。生徒たちの意見は真つ向からぶつかり合った。明るさを前面に出した「勝破笑B戦」と、ゴールの堂々たる姿を意識した「有終完美」のどちらがよいのか。話が白熱し、一進一退となったところで、私は改めて、級訓へのこだわりと、考えを出し合って決めることの大切さを、A子をはじめ一人一人の心に届くように願いを込めて語った。終盤に、「一年の終わりだけでなく毎日の生活を大切にしたい」という意見が多く出て、「勝破笑B戦」に決まりそうになった。その時、それまでじつと考え込んでいたA子が拳手をした。「確かに、勝破笑B戦はいいと思う。

でも、B組の級訓が『かっぱせん』って三年生らしくない。だから、両方の意味を込めて『英姿颯爽』というのはどうかな。『姿』を『笑』という字に変えれば、明るさも出る。」

意を決したようなA子の発言で、学級は静まり返り、数秒後、拍手が沸き起こった。この日のA子の日記には、「意見を言うことで周囲が笑顔になった」と考えを話すことに価値を感じたA子の言葉が表されていた。この日以来、A子の好きな授業に、学級会が加わった。話し合いを見守る教室には、「堂々と爽やかに、仲間と笑顔で過ごす」という思いを込め、級訓「英姿颯爽」が掲げられている。「合唱コンクールの曲決めでは、どやうやって意見を言おうかな。」

みんなが納得する歌にするため、級友と作戦会議をするその表情には、自信が満ちあふれていた。



研究の方向は、生徒が受け身の授業から「能動的な学び」への転換である。「能動的な学び」とは、生徒が自分の意志で、同じ目的に向かって仲間とかかわり合う学びのことである。言い換えれば「教える」から「学ぶ」への転換は、授業形態や生徒の行動が変化するだけでなく、教師の学びへのかかわり方自体が転換することを意味している。必要となる教師の役割は、いかに教材を理解するか、いかに上手に説明するか、どれだけ分かりやすいワークシートを作成するかだけではない。意欲を引き出す問い掛けができるか、各生徒の力を引き出すことができるか、個々の生徒をつないでグループの力を引き出すことができるか、集団での学びを促進することができるか、という能力を向上させなくてはならない。これらの学びを保障するためには、安心と信頼が構築された学習集団であることが重要となる。そして、気軽に自分の意見が発表できる環境が不可欠である。

生徒の方を向き、教師自身の研究を心掛け、教師集団の知恵を出し合いながら取り組んできた。その結果、教職員は団結し、授業力は向上している。研究は、確かな学校経営を支える一つの軸となっている。



岡崎の農業を未来へつなぐ

▲ 稲刈りをする子供たち（山中小）

岡崎市では、比較的温暖な気候、山間地や平野など土地の特性を生かして、農業が盛んに行われてきた。大豆や小麦は米との輪作により、県内屈指の生産量を誇っている。イチゴやナスは岡崎市ブランド推奨品として認定されており、県外にも多く流通するほどである。

しかし、環境問題や輸入自由化など、農業を取り巻く状況は年々厳しくなってきた。農業協同組合の調査によると、岡崎市では、担い手不足及び高齢化による生産力の大幅な減少が、特に懸念されている。

学校現場では、社会科を中心に地域の産業や農業について学習している。カントリーエレベーターなどの施設を見学したり、地域の方と協力して稲を育てたりする活動を行っている学校がある。また、菜種油搾りや案山子作りなどを専門家と連携して実践し、これからの地域農業について考える大切な機会としている学校もある。

子供たちは、こうした活動を通して、農業と食生活の関わりや、地産地消のよさを実感することができる。岡崎の未来に目を向け、農業に関心を持つ子が増えることを期待している。

地元の農産物から学ぶ

法性寺ねぎが、愛知県の伝統野菜たじつことを知りました。とてもおいしいので、ずっと守ってきた農家の人に感謝したいです。(五年児童)



▶ 生活科で育てる野菜の苗を選ぶ（常盤東小）



▶ 栽培した法性寺ねぎの調理実習（六ツ美北部小）



▶ 地産地消の調査（六ツ美中部小）



▶ 岡崎産の大豆が使われた給食（美合小）

施設を通して学ぶ

自分たちで大切に育て、収穫した米をライスセンターに持っていき、脱穀、精米してもらおう。米の見分け方や保存の仕方などを学ぶこともできる。



▲ ライスセンターの見学（豊富小）



▲ 精米状況を確認する（豊富小）



▲ ビーンセンター内の大豆選別機の見学（矢作西小）

カントリーエレベーターでは、米や麦の保存や稲の育苗を行っている。ビーンセンターでは、東海地区最大の機械で、大豆の選別を行うことができる。

▶ 牧内カントリーエレベーター



▲ カントリーエレベーター内の育苗センターの見学（矢作南小）



▲ 菜種油搾り（六ツ美中部小）



▲ 地域の方と一緒にサツマイモの苗を植える（岡崎小）



▲ 案山子づくり（矢作北小）



▲ 地域の方の支援を受け校舎横に育てた稲（竜海中）

農業協同組合 営農企画部
企画指導課課長
伊奈 修 氏

岡崎市では、米や大豆などの穀物以外にも、野菜や果物が作られており、多額な収入を得ています。しかし、農業人口が減少しているので、今のままでは心配です。そこで、農業塾を開いたり、農家の方に講習をしたりしていますが、あまり効果が見られません。食の確保のためにも、農業への良き理解者を増やしていきたいと思います。

人と関わりながら学ぶ



▲ 種もみ・肥料セット

種もみ・肥料セットを人数分、無料でもらうことができる。

J A が平成元年より実施をしている「バケツ稲づくり」は、希望すれば、種もみ・肥料セットを人数分、無料でもらうことができる。



▲ バケツで稲を育てる（広幡小）



▲ 栄養教諭による地元で栽培される大豆の授業（美合小）



●教育最新情報

○研究発表会・授業研究協議会

二学期以降、小学校三校、中学校二校で、研究発表と授業研究協議会が開催される。多くの教員が参加し、日々の授業改善に役立てる機会としてほしい。

〈研究発表会〉

◆岡崎市立北野小学校

十月四日(水)

※市委嘱(H27-29)

「すべての子供が楽しく参加し、わかる喜びを実感できる授業―ユニバーサルデザイン視点を取り入れた授業づくり―」

すべての子供が、授業に楽しく参加する。すべての子供が、「わかる」「できる」喜びを実感する。そんな子供たちをめざし、子供のつまずきに着目し、「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業

づくりに取り組んでいる。当日は、全学級で国語科、算数科の授業公開、授業者と語る会を行う。

◆岡崎市立竜美丘小学校

十一月八日(水)

※市委嘱(H27-29)

「豊かな心を持ち、二一世紀をたくましく生き抜く子どもを育成―道徳科の授業を中核とした教育課程を通して―」

よりよく生きるための基盤である道徳性を養うために、道徳科授業の工夫、評価と支援、他の教科領域との関連を図った総合単元や授業の指導法を示した年間指導計画の作成を進めてきた。

考え議論する道徳科の授業となるよう、子どもの意識を大切にしながら発問構成や、道徳的諸価値を自分事としてとらえるための学習活動を工夫してきた。当日は全学級で公開授業、授業者と語る会を行う。

◆岡崎市立福岡中学校

十一月十五日(水)

※市委嘱(H27-29)

「能動的に学ぶ生徒の育成―『見通す かかわる 振り返る』授業づくり―」

本校は、平成二十七年度より「能動的な学習を実現する教育課程」の研究委嘱を受け、研究実践に取り組んできた。能動的な学びを主体性・協働性のある学習にとらえ、各教科における「能動的に学ぶ生徒」の姿を明確にして授業を構想し、展開を工夫してきた。

当日は、全学級で各教科の授業公開を実施し、授業者と語る会を行う。教科・領域指導員から助言を受ける。

◆授業研究協議会

◆岡崎市立竜海中学校

十月二十五日(水)

「チャレンジ 竜海式Active Learning ―「ミニユニケーション」を取り入れた教科学習を中心に―」

生徒が主体的に学習に取り組むアクティブ・ラーニングを研究主題に据え、「考えを構築する段階」「関わり導き出す段階」「応用・発展する段階」を位置付けた単元構想を工夫する。また、授業後の時間帯にCMT(コミュニ

ケーション・ミドル・タイム)を設定し、生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。

当日は、授業公開・CMT公開を行った後、各教科別協議会を行う。英語科については、「愛知県英語教育研究大会」の公開授業・研究協議を兼ねる。

◆岡崎市立連尺小学校

一月三十日(火)

「ESDの視点に立ち、算数を楽しむ子供を育む岡崎・連尺教育―コミュニケーション能力を思考力・実践力へ―」

算数の教科書を中心とした四十五分の授業による問題解決学習「岡崎・連尺モデルV」を展開する。研究協議会も五年目を迎え、子供の個を生かし、関わり・生かすことで、さらに思考力を深め、実践力を引き出す授業を提案する。

当日は、全学級で授業公開、授業協議会、文部科学省教育課程調査官笠井健一氏の講演会を行う。

●表彰

◆全国中学校体育大会

○陸上

・女子4×100mR

優勝 竜海中

土居幸愛・土居心愛
手島美咲・高野景子

・男子800m

2位 城北中

・男子1500m

2位 翔南中

・女子200m

出場 竜海中

・女子800m

出場 葵中

・女子走り高跳び

出場 葵中

・男子200m

出場 東海中

・男子1500m

出場 城北中

・男子3000m

出場 竜海中

・男子走り高跳び

出場 六ツ美北中

・男子棒高跳び

出場 六ツ美北中

○水泳

・女子100m自由形

出場 六ツ美北中

・男子200m個人メドレー

出場 六ツ美北中

・男子400m個人メドレー

出場 六ツ美北中

○ソフト

・女子団体

出場 矢作北中学校

○バレー

・男子団体

出場 矢作中学校

◆東海中学校総合体育大会

- 陸上女子
 - ・800m 優勝 葵中 山田るうか
 - ・1年100m 優勝 竜海中 土居幸愛
 - ・100m 3位 甲山中 谷口琴音
 - ・走り高跳び 4位 葵中 石田琴巳
 - ・2年100m 4位 竜海中 土居心愛
 - ・4×100mR 5位 竜海中 土居心愛・手島美咲
 - ・1年100m 5位 南中 藤井鈴奈
 - ・6位 北中 北田野々花
 - ・1500m 7位 六ツ美北中 渡辺萌梨
 - 陸上男子
 - ・1500m 優勝 翔南中 後藤謙昌
 - ・800m 2位 城北中 片山宗哉
 - ・走り幅跳び 2位 河合中 浅井夏輝
 - ・100m 3位 福岡中 筒井健人
 - ・3000m 3位 竜海中 小林亮太
 - ・低学年4×100mR 4位 矢作中 伊藤圭吾・高橋 諒
 - 久野晴也・松本拓斗
- ・走り高跳び 5位 六ツ美北中 清水源樹
- ・200m 6位 東海中 深瀬京佑
- ・棒高跳び 6位 六ツ美北中 松嶋愛太
- ・3000m 8位 甲山中 山田奏楽
- 水泳男子
 - ・200m個人メドレー 優勝 六ツ美北中 仲平千尋
 - 水泳女子
 - ・100m平泳ぎ 2位 城北 岸原さくら
 - ・100m自由形 3位 六ツ美北中 岩村夏佳
 - ・100mバタフライ 6位 北中 今村 晶
 - バレーボール男子団体
 - 優勝 矢作中学校
 - バレーボール女子団体
 - 3位 矢作北中学校
 - 2位 ソフトボール女子団体
 - 陸上女子
 - ・総合 優勝 竜海中 高野景子・土居心愛
 - ・4×100mR 優勝 竜海中 手島美咲 土居幸愛
 - ・100m 優勝 甲山中 谷口琴音
 - ・1年100m 優勝 竜海中 土居幸愛
 - ・3位 南中 藤井鈴奈

◆愛知県中学校総合体育大会

- ・800m 2位 葵中 山田るうか
- ・1500m 2位 六ツ美北中 渡辺萌梨
- ・走り幅跳び 2位 城北中 浅井美和
- ・走り高跳び 3位 葵中 石田琴巳
- 陸上男子
 - ・800m 優勝 城北中 片山宗哉
 - ・2年100m 優勝 竜海中 山下侑冴
 - ・1年200m 優勝 東海中 深瀬京佑
 - ・1500m 優勝 翔南中 後藤謙昌
 - ・走り高跳び 優勝 六ツ美北中 清水源樹
 - ・棒高跳び 優勝 六ツ美北中 松嶋愛太
 - ・100m 2位 福岡中 筒井健人
 - ・3000m 2位 竜海中 小林亮太
 - ・低学年4×100mR 3位 矢作中 伊藤圭吾・高橋 諒
 - 久野晴也・松本拓斗
- 水泳男子
 - ・200m個人メドレー 2位 六ツ美北中 仲平千尋
 - ・400m個人メドレー 2位 六ツ美北中 仲平千尋

○水泳女子

- ・100m自由形 3位 六ツ美北中 岩村夏佳
- 柔道男子
 - ・個人50kg級 3位 六ツ美北中 太田隆介
 - 柔道女子
 - ・個人57kg級 3位 矢作中 俊百々花
 - ・個人70kg超級 3位 城北中 川崎想空
 - ・個人70kg超級 3位 竜南中 高橋ひかる
 - ソフトボール女子団体
 - 優勝 矢作北中学校
 - バレーボール女子団体
 - 2位 矢作北中学校
 - バレーボール男子団体
 - 2位 矢作中学校
 - 卓球男子団体
 - 2位 常磐中学校
 - 3位 矢作中学校
 - ◆NHK全国学校音楽コンクール
 - 東海北陸大会
 - 小学校の部 銅賞 梅園小学校
 - ◆NHK全国学校音楽コンクール
 - 愛知県大会
 - 小学校の部 金賞 梅園小学校
 - 銅賞 三島小学校
 - 中学校の部 銅賞 六ツ美北中学校

◆東海吹奏楽コンクール

- A編成の部 銀賞 北中学校
- ◆愛知県マーチングコンテスト
 - 中学校バレードコンテスト部門 銀賞 南中学校
- ◆愛知県小学校バンドフェスティバル
 - 金賞 竜美丘小学校
 - 銀賞 大樹寺小学校
 - 銀賞 城南小学校
 - 美合小学校
- ◆CBCこども音楽コンクール
 - 小学校声楽部門(合唱) 優秀賞 梅園小学校
 - 中学校声楽部門(合唱) 優秀賞 三島小学校
 - 中学校声楽部門(重唱) 優秀賞 竜海中学校
 - 竜美丘小学校
 - 矢作中学校B
 - 小学校の部(管楽合奏部門) 優秀賞 竜美丘小学校
 - 小学校の部(合奏第一部門) 優秀賞 矢作北小学校
 - 中学校の部(合奏第一部門) 優秀賞 城北中学校
 - 中学校の部(管楽合奏部門) 優秀賞 北中学校

・カ
ツ
ト
南
中
嶋
田
佑
子

親子で村積山に登る会 (昭和59年)

写真提供：細川小学校

細川小学校の学区には、名峰村積山がある。西暦七〇〇年頃に持統上皇が登山されて「花園山」と名付けられた、という言い伝えがある。

写真は、PTA行事として行われていた、村積山に親子で登る会の様子である。紅葉の時期に家族と一緒に登り、地域の良さを味わう機会となっていた。現在は、三年生の春の遠足として形を変え、地域への愛着を育む活動は受け継がれている。

学区にある歴史的な名所・旧跡を意外に知らないことが多い。子供たちも私たち教師も、学区を知り、触れることで、その良さを味わい、語り継いでいきたい。



「本物のゾウが見たい」と願う子供たちの心は今も昔も変わらない。

新しくなったゾウ舎ではビューイングシエルトアを通して間近にふじ子を見られるようになった。子供たちが興奮した笑顔でふじ子を見る姿が、山西さんの喜びとなる。

トンボが稲穂で羽根を休め、秋風に揺れている。一面に広がり、金色に波打つその風景は古から変わらぬものなのだろう。安心安全な食を供給しようと、尽力している人々がいる。岡崎の農業を未来につなぐと奮闘する姿を子供たちに伝えたい。

ど ホ

ツ

神無月



実りの秋 稲穂

月が美しく夜空に映える。太陽の光を受けて輝く姿は、古来より見る者の心を強くひきつけてきた。

どの子も輝きを秘めている。子供を輝かすための光の当て方をいつまでも追求し続ける教師でありたい。時には三日月のように、時には満月のように。



*人工知能の核心
NHK出版



羽生 善治
¥780

心に残った一文
人工知能について知ることは、人間について深く知ることかもしれない。

チェス、囲碁に続き、将棋界も人工知能に敗れた。エースである佐藤天彦名人が完敗したのだ。私たちは進化する人工知能とどう向き合えばいいのだろうか。

本書は、天才棋士・羽生善治氏の視点による人工知能の分析、人間との共存について書かれている。すでに脅威から共存へと舵を切った将棋界。その頂点に立つ氏の言葉は重い。「人工知能をセカンドオピニオンとして活用すること。人間の強みとしての創造力、応用力、言語力を磨くこと」など、氏の提言は、これからの教育の方向性をも明確に示している。

*山崎豊子とく男>たち。 大澤 真幸
新潮社 ¥1,300
*いちまいの絵 原田 マハ
集英社 ¥900
*にほんご歳時記 山口 謠司
PHP研究所 ¥780

広幡小 米村 進